

Title	大人（社会人）のためのお薦め英語学習法
Author(s)	森田，雅義
Journal	歯科学報，117(1)：17-23
URL	<a href="http://doi.org/10.15041/tdcgakuho.117.17">http://doi.org/10.15041/tdcgakuho.117.17</a>
Right	
Description	

## 教育ノート

# 大人(社会人)のためのお薦め英語学習法

The good ways of learning English for adults



森田 雅義

Masayoshi Morita

東京歯科大学英語研究室 教授

略歴 1977年上智大学外国語学部英語学科卒業, 千葉県高等学校英語教員, 同教育委員会指導主事等を経て, 2006年より東京歯科大学に助教授として勤務。2013年7月より現職。研究テーマ: 英語教育, 英語指導法 趣味: 愛犬との旅行

キーワード: 英語学習の目的, 第二言語としての英語習得, 外国語としての英語習得

Key words: the purpose of English learning, ESL, EFL

(2016年9月20日受付, 2016年11月17日受理, 歯科学報 117: 17-23, 2017.)

<http://doi.org/10.15041/tdcgakuho.117.17>

### はじめに

私の社会人(この言葉は文化的な違いから英語にしばらくのもの1つ)としてのキャリアは昭和53年, 高等学校の英語の教員としてスタートした。最初に勤務した学校が通信制の高校だったので, 全生徒の平均年齢は30歳くらい, 最高齢の「教え子」は昭和3年生まれ(当時)50歳だった。自分よりはるかに年齢の上の方々の中にはアルファベットの書き方も覚えない人もいて, そのため教科書の文法のところを噛み砕いて説明した自作の参考書を作成したことを今でもよく覚えている(当時は未だワープロもパソコンもなかったので, 全て手書きで作成した)。

さて, 本稿では「大人(社会人)のためのお薦め英語学習法」というタイトルで私の考えを述べさせていただくことにした。なぜ「大人(社会人)」に限定したかと言うと, 中学生・高校生には受験というハードルがある。希望校に入学するには, ほとんどの学校でも英語の勉強をしなければ, そのハードルは乗り越えられないというのが現実である。それに対して大人(社会人: 大学生を含む)には, もうそ

のような縛りはない。そういう意味で, ここでは一応中学生や高校生とは区別して大人(社会人)とした。

最初に述べたように, 私は高等学校の英語の教員としてスタートしたが, その後いろいろな機会に, 中学校の英語授業や小学校の英語教育にも関わってきた。そして平成18年から現在まで, 東京歯科大学で初めて大学生に対して英語教育を行っている。少しでも学生のためになるような英語の授業をするには, 毎日が試行錯誤の連続である。このような経験を通して, 私が思う大人(社会人)のためのお薦め英語学習法についてお話し, それが皆さんにとって少しでも参考になり, その中からご自分に合った学習方法を見つける機会になっていただけたら幸いである。

### 英語(外国語)学習において必要なこと

英語に限らず外国語の学習で一番必要なこと, それは英語(一応ここでは英語に統一)を学習する目的や動機である。これが大前提としてなければ, 英語学習に臨む気持ちも強くならないし, 長続きもしない。この観点から考えると, 最も大きな動機付けと

なるのは「生きていくため、生活していくため」という理由である。英語を母語としない人たちが、このような目的・理由で学習する英語のことを、『第二言語習得 SLA(Second Language Acquisition)理論』では ESL(English as a Second Language：第二言語としての英語習得)と言う。つまりその人にとって英語は生活していく上でどうしても不可欠なものなのである。例えば、中南米からアメリカに流入して来ているヒスパニック系の人々にとっては、英語は彼らの生活に必要不可欠であり、まさに ESL なのである。それに対して日本人にとって英語は ESL ではない。日本では普通の人々が普通に生活していく上で、英語が出来ないとどうしても生きていけないというような環境ではないからである。私たち日本人にとっての英語はあくまで外国語なのである。このことは先ほどの ESL に対して EFL(English as a Foreign Language：外国語としての英語習得)と呼ばれる。また当然なことだが、英語のネイティブスピーカーにとって英語は母語(Native Language とか First Language)であり、彼らにとって英語は ENL(English as a Native Language)である。

子どもから「なんで英語を勉強するの?」と聞かれた時に、「将来英語は絶対必要になるから」と答える親も多い。また、ビジネスマンであれば、「自分のキャリアアップのために英語が必要」といった調査等もよく見られる。しかし、日本に住んでいると、いくら「国際化した現代社会において英語は必要である」と言われても、今一つピンと来ないところがある。この点を踏まえた上で、私なりの英語を学ぶ目的の選び方とその留意点について述べてみたい。

#### [英語を学習する目的と留意点]

##### 1. 目的・目標はなるべく具体的にする

英語を学習する目的はなるべく具体的なものにすべきである。先ほどの、「将来英語は絶対必要になるから」や「国際化した社会において必要」では何となく具体性に欠けている。もっと「英語で〇〇がしたい」、例えば、英語で買い物したい、英語でメールのやり取りをしたい等の方が、そのための学習方法も見つけやすくなる。

##### 2. 英語の試験を目指す

TOEIC や英語検定のような資格試験を取得することを目標にするのも明確な動機付けとなる。また、自分の現在の到達度を客観的に見極めるためにもよいと思う。しかし英語の学習というのは、それ自体が目的ではない。あくまで英語は言語であって、その目的は「英語を使って〇〇する」ことである。資格試験の合格が最終的な目標ではないと私は考える。

##### 3. 自分の好きな分野、専門的なことに活用する

英語を自分にとってなるべく身近な存在にする。それは自分の趣味や好きなこと、或いは自分の専門分野で英語を活かすということである。好きなことであれば長続きもするし、専門分野での英語は必要であるから使うのであって、そこには英語を使う必然性が生まれる。このような環境づくりも大事な要素である。

### 具体的学習法と実践例

いよいよここからは具体的なお薦め学習法とその実践例について述べていきたいと思う。その構成としては、まずそれぞれの内容の解説を述べた上で、その実践例を紹介するという形で進めていくこととする。

#### 1. 文法について

##### [解説編]

世の中には英語の学習をする際に、「英語を話すときは文法は気にしなくてもよい。」とか「英語はただ聞き流しているだけで上達する。」というようなことをよく聞く。また、「英語はネイティブの子どもが覚えるように学習するのが一番よい。」と言う人もいる。しかし、これは私の経験上、あるいは先述の私たちの周りの環境から考えると、「うそ!」である。特に大人(社会人)が英語を勉強するには英文法を活用するほうが、絶対に効率的である。大人には英語以外にやらなければならないことがたくさんある。英語を学習することだけに時間を取れない人にとって、英文法の学習は不可欠であり、そういう意味でも英文法のおさらいをすることは決して無駄にはならない。

もう一つ英文法の学習を奨励する理由は、「きち

んとした英語を話すの方が信頼される。」ということである。いい歳をした大人が若者が使うような言葉やスラングばかりを使っているのは、いくら英語が「上手」であっても周りから信頼されることは無理である。特に歯科医師のような立場にいる人は、きちんとした英語を使うことが望ましいと思う。

このようなことを十分理解した上で、英文法の参考書を改めて見てみたいと思う。そこには昔は気づかなかった新たな発見があるかもしれない。

[実践編]

具体的な実践例をお示しする前に、文法をおさらいする際の留意点についても述べてみたい。以下の4つが私の考える留意点である。

- ◇ 文法書は最初から最後まで全部読まなくてもよい。
- ◇ 忘れていているところ、知りたい項目について読む。
- ◇ 例文は日常的に使えるようなものがよい。
- ◇ 文法書は自分と相性の良さそうなものを選ぶ。

それでは具体的な例を1つ挙げてみる。皆さんは「未来形には be going to か will が用いられる」という説明を中学校の時に習ったと思う。しかし、be going to と will は全く同じなのだろうか。そう思った時文法書で調べると、次のような説明がされている。

(例) be going to と will の違い

**be going to**

- ① 「～するつもりでいる」というような、前もって考えていた事柄で、心構えの出来ている未来の意志を表す

(ex.) I am going to sell my car.

「私は車を売るつもりでいます。」

- ② 何らかの兆候が現れている場合

(ex.) She is going to have a baby.

「彼女、もうすぐ赤ちゃんが産まれます。」

**will**

- ① 不定の未来のこと、もしくはより遠い未来に起こると予測される事柄を表す

(ex.) He will get better.

「彼は良くなるでしょう。」

- ② 目の前の状況を見て、ぱっと「今、決めた」というようなイメージの場合

(ex.) “Someone is knocking on the door.”

「誰かがノックしてるよ。」

“I will get it.”

「私が出ます。」

このように同じ未来のことを表す will と be going to にも微妙な違いがあることが分かる。

それではこの説明を踏まえると、次の問題の答えはどうなるだろうか？

(問題) 次の場合には、be going to か will のどちらを用いますか？

空を見上げると、もくもくと黒い雲が出てきました。「もうすぐ雨が降ってくるぞ。」

It \_\_\_\_\_ rain soon.

文法書の be going to 説明②「何らかの兆候が現れている場合」という内容が当てはまりそうなので、答えは

It is going to rain soon. となる。

このように中学校や高等学校で学習した事柄について改めて見直してみると、いろいろ新たな発見がある。ここで覚えた知識は完璧に使いこなせるようになる必要はないが、そのことを知識として知っているだけで、英語を話す時だけでなく、読んだり、書いたり、聞いたりする際にも必ず役立つと思う。

[お薦め英文法書]

英文法書については「絶対にこれ！」と言ったものはない。受験の時に使ったような英文法の本でも構わないと思う。また人によっては、文法の説明が詳しいほうがよかったり、簡単なほうがよかったりと好みも違う。結論としては自分自身が使いやすいものであればよい。ただ私は例文がより実用的なものの方が良いと考えているので、その視点からいくつかの文法書をご紹介します。編集のねらい等を見ると、文法書によって特に力を入れて編集している部分が違うので、そのことも判断の基準になる。

- 「表現のための実践ロイヤル英文法」<sup>1)</sup>

英文法書としてオーソドックスな編集になっていて、解説等も丁寧にきちんとしている。大人としての標準的な英語を書いたり、話したりする文法書として適していると思う。紹介されている例文も実際

に使われているものから取り入れた文が多いので、実践的である。

●「一億人の英文法」<sup>2)</sup>

従来の文法書に見られるいわゆる「文法用語」での説明を極力抑え、文法項目をどう感覚的に捉えるかに重点をおいた文法書。コミュニケーションに使うための英語の習得に重きを置いており、使用されている例文もとてもユニークで楽しいものが多い。

●「完全マスター英文法」<sup>3)</sup>

Jアプローチという新しいメソッド(方法)に基づいて書かれた英文法書。かつてアメリカで日本語教育を行う際に採用された手法ということである。詳細な文法を読み込んだ上でスピーキングを中心に据えた編集になっている。じっくりと英文法を知りたい人向き。

## 2. 瞬間英作文

### [解説編]

次にお薦めするのは「瞬間的に英語にする」という練習方法である。本屋さんに行くとこのような類の本が多くあるが、確かにこの手法は一定の効果が期待でき、私も自分の授業の中に取り入れている。練習方法は簡単で「中学レベルの基本文をすばやく英語にする」ということである。この方法のねらいは、「知っていることを、使えるものにする」ことである。中学校レベルの英語だったら、おそらくほとんどの人が文字を見れば理解することはもちろん、いわゆる英作文をすることはたやすいだろう。しかし、これを瞬間的に口頭で英語にせよ、と言われていたら慣れていないとかなり苦勞する。例題を1つ示すと、「私の父は100メートルを12秒で走れる」という日本語を瞬時に英語にすることが出来るだろうか？正解は、My father can run a hundred meters in twelve seconds.となるが、文法的に言うところの文は中学校の1年生で習う英語(助動詞 can の使い方)ということになる。コミュニケーションに必要な英語の語彙は、その人の年齢等によって様々だが、文法という点で見るとこれは中学校の英語である。要は、文法は知っているだけではダメで、それをいかに活用して、実際の場面で使えるようにするか、が大事ということである。英語学習はよく車の運転に例えられる。道路交通法のような法規や車の

仕組みを知っているだけでは、運転は出来るようにはならない。実際に車を運転して初めて身に付くものである。少し考えれば当たり前のことだが、この訓練の部分が従来の英語の授業に不足していた部分である。

### [実践編]

では、上で取り上げた例と同じように、次の日本語を瞬時に英語にしてもらいたい。時間の目安は遅くともだいたい10秒以内とする。

※解答はこの項の最後

- ①「これはお寺です。」  
(中1で習う英語)
- ②「先週彼には会いませんでした。」  
(中2で習う英語)
- ③「もし君が試験に合格したいと思うのなら、一生懸命勉強しないといけないよ。」  
(中3で習う英語)
- ④「気持ちが悪い！」
- ⑤「君、かっこいいね。」
- ⑥「あなたの息子さんは車の運転をしますか？」

どうだったであろうか？ずっと英語に出来ただろうか？語学の練習はよく Practice makes perfect. 「習うより慣れろ」と言われる。この練習方法はまさにその典型である。

### (参考) 瞬間英作文を行った感想

- ※平成28年度第2学年授業評価アンケートより
- 簡単な文でも瞬間的に英語にするのはとても難しいと分かった。
  - 中学校、高等学校の基本的な文の復習に役立った。
  - 簡単な文法でもいろいろ表現出来ることが認識できた。
  - 少しずつ英語が口からずっと出てくるようになった。
  - 海外に行った時に意外に英語がスムーズに出てくる経験をした。

### [お薦めの瞬間英作関連本]

- 「どンドン話すための瞬間英作文トレーニング」<sup>4)</sup>  
この種の練習法の草分け的な本。実際の中学校の



教科書に出てくる例文を用いて編集しているので、どこかで見たことのある文が並んでいる。例文に使われている単語も簡単なもので、単語が分からないことが理由で英語が出てこないことはほとんどないだろう。敢えて難点を挙げるとすると、若干例文で不自然なものがあるのとやや内容自体が大人向きではないものがあるところである。

●「会話できる英文法大特訓」<sup>5)</sup>

この本も文法項目にしたがった配列になっているが、前述の本よりは例文が実践的でより日常的な場面で使えそうなものが多くなっている。ただその分単語が原因となって瞬間的に英語が出てこない、ということがあるかもしれない。

●「瞬時に出てくる英会話フレーズ大特訓」<sup>6)</sup>

同じ出版社のもので、「会話できる英文法大特訓」とも似ているが、第1章に定型フレーズ編として1語フレーズ、2語フレーズで言い表す表現があったり、お詫び、説明するといった場面別の例文が紹介されている。そのあと文法項目ごとに編集されている。例文も日常会話的なものが多い。

●「必ずものになる話すための英文法」<sup>7)</sup>

この本の特徴はシリーズになっていて、入門編から初級編、中級編、上級編と学習者のレベルに合ったもので勉強することが出来る。使われている例文もとても良いと思うし、実用的である。上級編ともなるとかなり手強い内容である。個人的には左ページに日本語が配列してあると使いやすい。

[例題の答え]

- ① This is a temple.
- ② I didn't see him last week.
- ③ If you want to pass the examination, you have to study hard.
- ④ I feel sick.
- ⑤ You look cool(nice).
- ⑥ Does your son drive a car?

3. 日本語→やさしい日本語→英語の言い換えの習慣をつける

[解説編]

「英語は英語で考えて話す。」このこともよく言われることである。確かに長い海外生活の経験があっ

たり、周りが皆英語を使うような環境であれば、そのようなことも可能かもしれない。しかし大多数の日本人はふだん英語に囲まれているような環境ではない。したがって、英語を話す場合に日本語が多少なりとも介在するのは当然である。そうであるならば、日本語が間に入るのが当たり前である、と承知して学習するほうが得策だと思う。実際に英語がかなり上手(本来上手という意味の定義をまずしなければならぬが、一応ここでは分かりやすい言葉で上手とした)であっても、これから述べるような作業を頭の中で、意識的か無意識的かに拘わらず行っているはずである。この時間が短くなるほど、英語でのコミュニケーションがスムーズになり、傍で見ているとあたかも「英語で考えて話している」ように見えるのである。その方法が「日本語→やさしい日本語→英語の言い換えの習慣」である。

(具体的には)

- (1) 日本語を直訳しようとせず  
↓
- (2) その日本語の内容を自分の英語で言えそうな表現に言い換えて  
↓
- (3) 英語にする

[実践編]

いくつか例題を使って説明したい。

(例題1)「そんな朝飯前だ。」この日本語を英語にしたい時、どのように言えばいいだろうか。(まさか!! It is before breakfast.とは言わないと思うが)英和辞典には、It's a piece of cake.という表現もあるが、この表現を暗記するだけでは、実際のコミュニケーションに活かすことは出来ない。ならば、まず日本語で言い換えて、例えば「朝飯前」⇒「簡単だ」と考える。そうすると、この文は It is very easy. と言えば十分であることになる。

(例題2)「連絡くださいね。」この場合「連絡」は英語で何て言ったっけ?と考えるとそこで間があいてしまう。こんな時に「連絡」⇒具体的に「電話・手紙・メール」と即座に置き換えられる習慣がついていれば、Please call(write to / e-mail) me.と出てくるようになる。

実はこの練習方法を「群馬県歯科医師会」の研修会でお話して、試してみてもらったところ、次のような解答が出てきた。

○次の内容を「日本語→やさしい日本語→英語」のパターンで英語にしてみてください。その際、英文を最低2つ考えてください。

- ①「私の家は築50年です。」
- ②「そんなの常識だよ。」

#### ①の解答例

My house was built fifty years ago.  
 My house was built in 1966.  
 My house is fifty years old.

#### ②の解答例

Everyone knows that.  
 All people think so.  
 You should(must) know it.

どの英語も自らの考え、英語を駆使した素晴らしい表現だと思う。是非皆さんもこの方法をご自分の英語学習の中でも一度試してみていただきたい。

(参考) 受講者(歯科医師・歯科衛生士)からの感想

- ・日本語を英語に変えるコツが分かった気がする。
- ・中学生の英語知識でも十分会話が出来るのだと驚いた。
- ・英語での会話が好きになれそうな気がしてきました。
- ・ちょっとだけ英語アレルギーがなくなりました。
- ・まず「簡単な日本語に変える」。よく分かりました。

#### 4. その他

この項の最後として、英語を学習する上での私の信条というか、考え方について述べさせていただく。多少今までと重複する部分があるが、ご容赦願いたい。

##### 1) 専門分野や趣味に関する語彙を増やす

先ほども少し触れたが、英語の学習に興味をもち、さらに長続きさせるためには、自分の専門分野や趣味に英語を活用するということである。専門分野であればどうしても英語を使わざるを得ない状況

も出てくるだろうし、興味のある分野であれば学習も楽しく進められると思う。いずれにせよ、そのような分野であれば皆さんにはそれについての知識もあるし、「話す内容」がある。この「話す内容」があるということは英語を使う意味においてとても大切である。そのための語彙を増やししながら、「話す内容」を多くしていってもらいたい。「英語を中学から大学まで習っても日常会話さえ出来ない。」とよく言われる。実は日常会話が一番難しいのである。

##### 2) 国際語としての英語習得を目指す

英語はもはや英米人のための言語ではない。政治、経済、文化等あらゆる面で、世界中の人たちが交流するための道具である。そういう意味で、英語は「英米人の言葉」という役割はすでに失い、世界のグローバルな言語として、すなわち『世界共通理解用言語』としての役割を担っている。英米人とのコミュニケーションのためのみの英語と考えるのではなく、世界共通語としての英語の習得を目指してほしい。

##### 3) 話す内容が大切である

英語を話す際、相手の人は皆さんの英語を聞きたいのではない。あなたが何を語ってくれるのかが聞きたいのである。英語を媒介として、あなたのことや日本のことが知りたいのである。英語を使って何がしたいのか、何を伝えたいのか、を常に意識して英語の学習をすることが大切である。

##### 4) 開き直す

最後に、「所詮英語は外国語」である。英語のネイティブようになるのは無理であるし、それを目標としての英語学習はあまり意味がない。

#### [参考図書]

##### ●「本物の英語力」<sup>8)</sup>

著者は同時通訳者としてもお馴染みの方で、NHK テレビの「ニュースで英会話」の講師でもある。日本人が目指すべき英語力が現実に即してとても良識的に述べられている。今回私が述べさせていただいた内容とも共通しているところも多かった。一読の価値がある良書。

##### ●「一流は、なぜシンプルな英単語で話すのか」<sup>9)</sup>

きちんとした大人の英語について述べられた本。

特に Chapter 3 「プレゼンテーションで使える単語」、Chapter 4 「ミーティングで役立つ単語」等は歯科医師の皆さんにも役に立つ表現が豊富に収められている。今までありそうでなかった本である。

### まとめ

「英語は暗記である」確かに基本的なことについて覚えるには必要な場合もあるが、それだけでは英語の学習は、ただ苦しいだけのものになってしまう。また、いつまでたっても英語を使ってコミュニケーションが出来るようになることは難しい。英語は、学習したことをまず自分の出来る範囲で実践してみる。実践してみて、間違えたり、成功したりしながらまた学習する。そして新たに学習したことを更に実際に使ってみる。この繰り返しである。少なくとも英語を外国語として学んでいる私たちには繰り返しやっていくしかないのである。まさに『習うより慣れろ』である。自分自身の目的や必要に応じ、自分に合った学習方法を積み重ね、実際に英語を使ってみる。このことこそ「大人(社会人)のためのお薦め英語学習法」であると考えている。

### おわりに

2020年と聞いてまず思い浮かぶのは、東京オリンピック・パラリンピックの開催だろう。しかし、英語教育界でもこの年大きな変革が行われようとしている。それは何かというと、

- (1) 小学校3年生からの英語授業(外国語活動)の必修化
- (2) 小学校5年から英語が正式な教科として実施
- (3) 中学校・高等学校の英語の授業を原則英語で実施
- (4) 入学試験を英語検定等の資格試験で代替

このうち(1)と(2)について少し説明すると、英語は現在でも公立の小学校で「外国語活動」として5年生から実施されている。それが3年生からに前倒しになって、更に5年生からは英語が正式な教科になる。簡単に言葉で言ってしまうとこれだけだが、ここには大きな違いがある。「外国語活動」というのは言ってみればクラブ活動のようなものであり、基本的に教科書もなければ、成績も付けない。しか

し、正式な教科になると、教科書があり、成績も付けるということである。そうすると、例えば中学校を受験する際に内申書の項目として、英語が加えられる可能性があり、英語という教科がすでに小学校の段階から受験科目として捉えられてしまう心配がある。この年代のお子様をお持ちの方は是非注目してほしい。

さて、「学校で英語を勉強しても何一つ役に立たない」この言葉が最初に使われたのは明治時代だそうである。そして今なおよく聞かれる言葉である。しかし、英語という言語に求められる役割は、その時代時代によって変わってきた。かつてはアジアの1小国に過ぎなかった日本も、いろいろな分野において日々世界中の国々の人たちと関わっている。だからこそ『世界共通理解用言語』の英語習得を目指した英語の学習をしていただきたいのである。英語の学習が「英語我苦習」ではなく、少しでも「英語楽習」になっていただけることを願っている。

それでは最後に本原稿の内容を踏まえて、次の内容を英語にしてみてください。

「東京歯科大学は創立何年ですか？」

本稿の内容は第301回東京歯科大学学会・例会(2016年6月4日、東京)における特別講演で発表した。

### 文献

- 1) 綿貫 陽, Petersen MF: 表現のための実践ロイヤル英文法, 旺文社, 東京, 2011.
- 2) 大西泰斗, McVay PC: 一億人の英文法, ナガセ, 東京, 2011. (東進ブックス)
- 3) 米原幸大: 完全マスター英文法, 語研, 東京, 2009.
- 4) 森沢洋介: おかわり! どんどん話すための瞬間英作文トレーニング, ベレ出版, 東京, 2010.
- 5) 妻鳥千鶴子: 会話できる英文法大特訓, Jリサーチ出版, 東京, 2012.
- 6) 山崎祐一: 瞬時に出てくる英会話フレーズ大特訓, Jリサーチ出版, 東京, 2011.
- 7) 市橋敬三: 必ずものになる話すための英文法, 研究社, 東京, 2006.
- 8) 鳥飼玖美子: 本物の英語力, 講談社, 東京, 2016. (講談社現代新書)
- 9) 柴田真一: 一流は、なぜシンプルな英単語で話すのか, 青春出版社, 東京, 2016. (青春新書)

連絡先: 〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台2-9-7  
東京歯科大学英語研究室 森田雅義